

3. 松原地区の課題と今後の取り組み

課題1 住民の安否確認

■課題に対する意見

- 安否確認の方法が確立されておらず、安否確認の体制も整っていない。
- 住民の約半数が町会に未加入なので、住民の情報が少ない。
- 緊急時に使用する町会内の連絡網はあるが機能していない。
- 隣近所で安否確認を行うということを確立できればよいと思う。

■地区としての今後の取り組みの方向性

- 町会・自治会ごとに担当者や役割を決めて、安否確認の体制を作る。
- 担当者ごとに収集した情報を、集約できるような用紙の作成や場所の確保についても検討していく。

■各団体の今後の取り組みの方向性

- 会長、副会長、民生委員、地区理事が安否確認をして情報を集める。(1丁目)
- 災害時の役割を分担した組織図を作成する。(1丁目)
- ノート等を使用して、被害情報の報告書を作成しておく。(1丁目)
- 避難所での安否確認を円滑に行うために、同じ避難所が指定されている松原1丁目町会と分けて安否確認が出来るようにしておく。また、安否確認が出来た避難者に、ケガや病気の有無を記入したシールを貼ってもらう。(2丁目)
- 住んでいる番地ごとにブロックを作り、その中の班長に安否情報を報告するという仕組みを確立していく。(三・四丁目)

課題2 災害時要援護者支援

■課題に対する意見

- 災害時要援護者支援制度の認知度が低いため、防災訓練等で周知を行っているが、防災訓練に参加する人が少ない。
- 自治会役員と民生委員の組み合わせで要援護者の訪問を行っている。

■地区としての今後の取り組みの方向性

- 防災訓練等で災害時要援護者支援制度について周知をしていく。
- 災害時に安否確認を行う担当を組織化しておく。

■各団体の今後の取り組みの方向性

- 災害時要援護者支援制度についての周知をしていく。(2丁目)
- 災害時は、担当者を5人×3グループに組織化して安否確認を行う。(5・6丁目)
- 要援護者の安全確保については、ヘルパー等の活用も検討する。(5・6丁目)

課題3 負傷者等の救出・救護

■課題に対する意見

- 救助するための人員が不足している。
- 町会内の医療従事者の情報を把握出来ていない。
- 救護体制が確立していない。
- 救護用具（当て木や包帯など）は防災倉庫に備蓄している。

■地区としての今後の取り組みの方向性

- 町会・自治会の役員が主体となって、救護活動を行うことを想定しているが、実際はすぐに活動できないことが予想されるので、救護体制について検討していく。
- 防災倉庫などに救護用具を備蓄しておく。
- 松原地区には医療救護所に指定された避難所がないので、最寄りの医療救護所（代田小学校や松沢中学校）について周知していく。

■各団体の今後の取り組みの方向性

- 町内の医療従事者リストを作成する。（1丁目）
- 自宅での備蓄物品リストを作成して回覧で周知する。また、自宅に倒壊等の恐れがない場合は、自宅避難をするように呼びかけていく。（1丁目）
- 一般の通行人に救護活動の応援を求めるとしているが、どの程度の人数が活動できるのかについて想定が難しいので、今後検討していく。（2丁目）
- 医療救護所については「松原三・四丁目の最寄り松沢中学校」と地域イベント等で周知していく。（三・四丁目）

課題4 初期消火

■課題に対する意見

- 消火器やスタンドパイプの使い方がわからない人が多い。
- 消火器の設置場所が把握できていない。
- 防災訓練等で消火器の使い方を周知しているが、防災訓練に参加する人が少ない。

■地区としての今後の取り組みの方向性

- 消火器やスタンドパイプの使い方については、防災訓練等で周知していく。

■各団体の今後の取り組みの方向性

- 火災の原因となる漏電を防ぐために、電気のブレーカーを落としてから避難するように周知していく。（1丁目）
- 消火器等の設置場所については、防災マップを用いて周知していく。（2丁目）

課題5 帰宅困難者対策

■課題に対する意見

- ・発災の時間帯によっては、帰宅困難者支援ステーション等に収容できない数の帰宅困難者が避難してくることが予想される。

■地区としての今後の取り組みの方向性

- ・帰宅困難者は避難所では受け入れられないので、帰宅困難者支援ステーション（光明特別支援学校や松原高校）の役割を周知していく。

■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・広域避難場所に指定されている羽根木公園には、多くの避難者（帰宅困難者を含む）が避難してくることが想定されるので、備蓄物品を保存しておく倉庫の設置を検討する。（5・6丁目）

課題6 他団体との連携

■課題に対する意見

- ・2つの私立学校があるが、災害時の協力については確立していない。

■地区としての今後の取り組みの方向性

- ・私立高校が地区の行事に参加しているので、このような接点を活用しながら災害時の協力体制確立を目指していく。

課題7 避難物資の確保

■課題に対する意見

- ・避難物資を確保するルートが確立できていない。

■地区としての今後の取り組みの方向性

- ・各家庭で物資を確保（備蓄）しておくように周知する。

■各団体の今後の取り組みの方向性

- ・甲州街道からの物資提供を可能にするために、甲州街道沿いに備蓄庫を設置できないか検討していく。（三・四丁目）
- ・商店街等と物資提供の協定締結を検討しているが、協定を締結しても帰宅困難者などが押し寄せると物資の提供が難しいことが想定される。そのため、避難所から商店街にどのような物資が不足しているか情報提供してもらい、その時点で供給できる物資の情報を確認するためのルートを作る。（三・四丁目）